

# 第38期 中間事業報告書

平成17年4月1日～平成17年9月30日



平和企業CM30秒「戦場のメリーゴランド」より

 **HEIWA**  
<http://www.heiwanet.co.jp/>



 **HEIWA**  
<http://www.heiwanet.co.jp/>

最新のエレクトロニクス技術を駆使して  
 今やレジャー産業の雄に成長したパチンコ産業。  
 平和は常にその先頭を走ってきました。  
 戦後の暗闇の中で、人間にとって最も尊く大切なことは  
 「平和」であると痛感した瞬間から、  
 私たちの道は始まりました。  
 パチンコ産業は「平和」の象徴でありたい、  
 その熱い想いが社名になりました。  
 時代が変わり、時が移っても、  
 その創業の精神は脈々と受け継がれ  
 一人ひとりの心に息づいています。  
 平和こそ、私たちの原点。

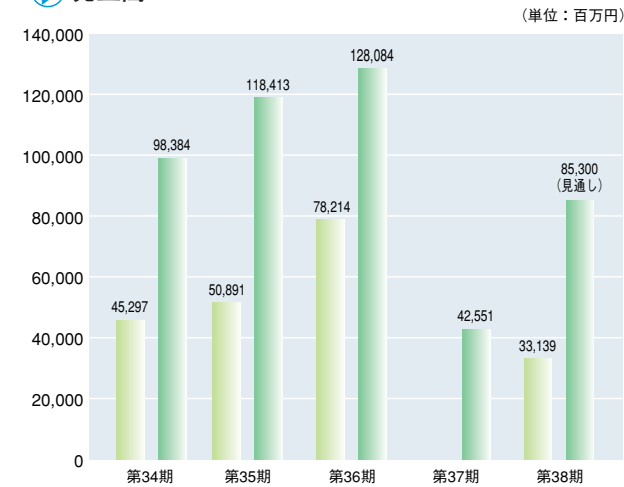
- 02 財務ハイライト (連結)
- 03 トップインタビュー
- 07 セグメント別の概況と通期の見通し
- 10 HEIWAトピックス
- 11 連結・単独財務諸表
- 13 会社概要・関連会社のご紹介
- 14 株式の状況・株主メモ

CONTENTS

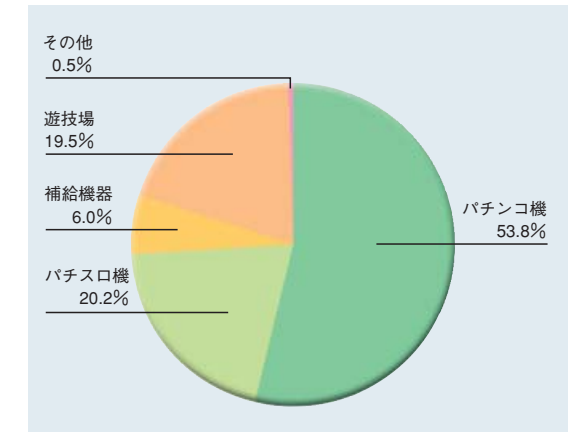
01 | 財務ハイライト (連結)

中間期 通期

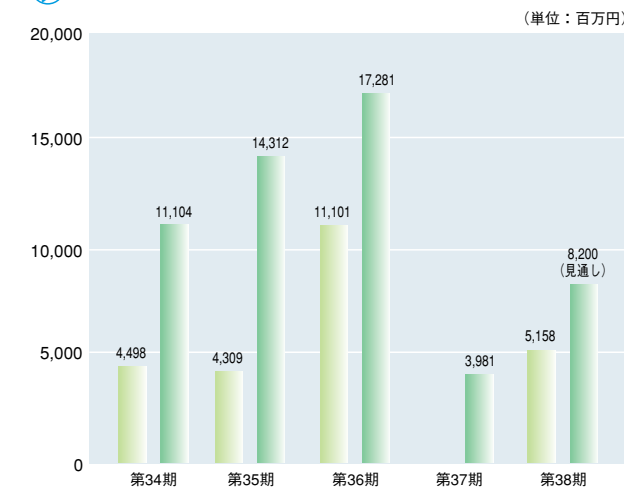
▶ 売上高



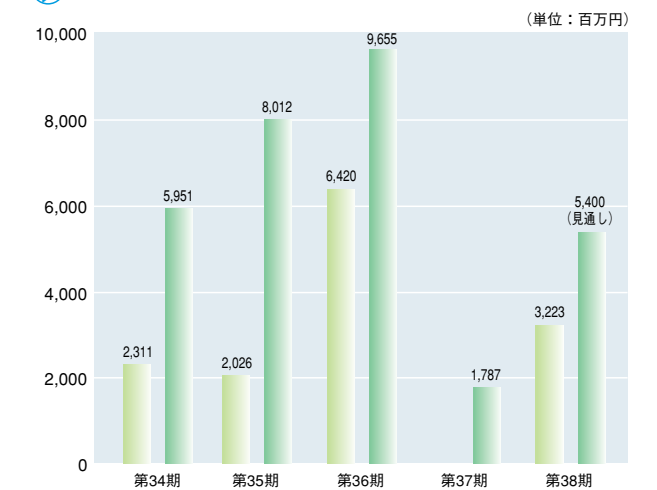
▶ セグメント別売上高構成比



▶ 経常利益



▶ 当期純利益



※決算期日を12月31日から3月31日に変更したため、第37期は2005年1月1日から2005年3月31日までの3ヵ月間となります。

# 02 | トップインタビュー

## 「顧客ニーズにあった製品開発を促進し、高収益体質への変革を実現します」



代表取締役社長 中島 潤

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社グループの第38期中間期（2005年4～9月）の業績、通期の見通しなどについて、この場をお借りしてご説明させていただきます。

### パチンコ・パチスロ業界の動向

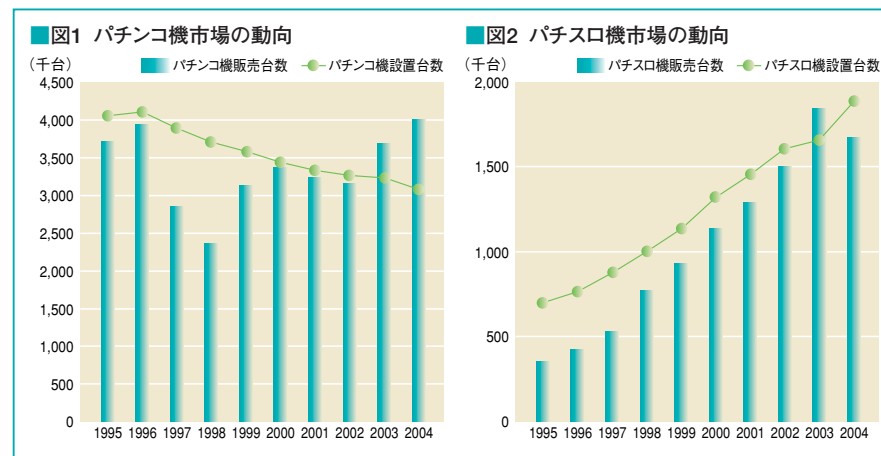
まずは、当社グループの中核事業であるパチンコ機・パチスロ機事業を取り巻くパチンコ・パチスロ業界の市場動向をご説明します。

パチンコ・パチスロ業界の市場規模は、パチンコ・パチスロのユーザーがパチンコ玉やパチスロのメダルを借りる際に支払う「貸玉料」を市場規模の指標としており、ここ10年ほど貸玉料は28～30兆円で安定しています。

パチンコ・パチスロで勝ったユーザーはパチンコ玉やメダルをDVD・CD、タバコやお菓子といった景品に交換します。この還元率は一般的に80～90%といわれていますので、パチンコホールの実質的な売上高は4～5兆円程度と推測されます。当社の顧客であるパチンコホールはこの中からパチンコ機・パチスロ機の購入費用、人件費、光熱費やその他の費用を捻出している形になります。

### パチンコ機・パチスロ機市場の動向

——では、平和の主力事業である、パチンコ機・パチスロ



機市場の状況を説明してください。

当社グループの主力事業であるパチンコ機・パチスロ機市場は、拡大基調にあり、2004年度には1兆3,000億円規模となりました。これに補給機器や周辺機器等を含めると、遊技機産業関連市場全体では2兆円近くになります。

ですが、パチンコ機とパチスロ機は異なった市場として認識する必要があります。

——では、各々の市場の現状と特徴を教えてください。

まず、パチンコ機ですがユーザー層は30代以降の方が中心です。

パチンコ機の設置台数はここ数年減少を続け、昨年末の時点で308万台となっています（図1参照）。これは後ほど詳しくご説明しますが、パチスロ人気により、パチンコホールがパチンコ機を減台し、パチスロ機を増台した結果です。

しかしながら、パチンコ機の販売台数そのものは年々増加傾向にあり、昨年はついに400万台を突破しました。これには2つの理由が挙げられます。1つは、新台入替を行うことにより集客をはかるパチンコホールの営業スタイルが加速したこと、もう1つは、2004年7月の遊技機規則改正により、従来に比べゲーム性の高い機種開発が可能になったことです。そのため、ユーザーの新規則機への注目が高ま

り、パチンコホールが旧規則機を早めに新規則機に入れ替えたのです。

——では、パチスロ機市場の状況はいかがでしょう？

パチスロはここ数年でゲーム性が多様化したこともあり、20～30代の若年層がユーザーとして定着しました。パチンコより明確にゲームに参加しているという「実感」を持てるのが人気の理由です。

このパチスロ人気もあり、パチスロ機設置台数は順調な伸びを記録し、昨年末の設置台数は188万台となりました。その一方で販売台数は167万台と一昨年度に比べると10%近い減少を記録しました（図2参照）。

これは、2004年7月の遊技機規則改正に伴い、パチスロ機の規則が大幅に変更されたことが主な原因と言えます。各メーカーは新規則機の許可取得に時間がかかることを予想し、少ない持ち駒となった旧規則機の市場投入時期を慎重に検討した結果、入替頻度が低下しました。

——今までのお話は現在の市場動向でしたが、今後の市場動向はどのようにお考えですか？

パチンコ機市場の入替需要は依然堅調ではありますが、通期で見た場合、昨年度ほど大きな販売台数は見込めないと考えています。

## 02 | トップインタビュー



パチスロ機市場は、新規機が市場に投入されはじめていますが、市場の評価を判断するにはまだ難しい状況です。上期の状況からすると昨年度より販売台数は減少するものと考えています。

### パチンコ・パチスロ業界の課題

——パチンコ・パチスロ業界の長期的な課題は何になりますか？

長期的視点で考えた場合、パチンコ・パチスロの参加人口をどう増やしていくかが最大の課題になっています。パチンコ・パチスロの遊技人口は10年前には3,000万人を超えていました。これが現在では1,800万人弱にまで落ち込んでいます。パチンコ・パチスロの射幸性が上がり、ライトユーザーの減少が業界全体の深刻な問題となっています。

——この状況にはどう対処していけばよいとお考えですか？

当社としても現状に危機感を感じています。そのため、ライトユーザー層をターゲットとした機種開発に努め、今年度は「サバナキングPJ」や「およげ！たいやきくんV」といった射幸性の低い機械を発売しました。また、いわゆる「売れ筋」の機種もいたずらに射幸性の高い機種を出すのではなく、「アントニオ猪木という名のパチンコ機」のように「遊べる」機種を今後もメインに据えたいと考えています。

さらに、今までパチンコ・パチスロに興味がなかった新たなユーザーの獲得も大きな課題です。当社では、Jリーグへの協賛、継続的なCM展開などを行っていますが、これはパチンコ・パチスロ業界及び当社の認知度向上を目的としています。

### 平和の業績

——2005年9月中間期の業績を説明してください。

売上高331億円、経常利益51億円となり売上高は業績予想を下回る結果となりました。これはパチンコ機事業の売上が予想を下回ったためです。

利益面では業績予想を上回る結果となりました。これは、今年度より自社開発・生産パチスロ機の販売を開始した結果、パチスロ機事業の粗利率が大幅に改善したこと、また試験研究費を中心とした販管費の消化が一部下期にずれ込

んだことが原因です。

——なぜ、売上が予想を下回ったのですか？

実は、今回の規則改正によりパチンコ機のゲーム性の自由度が向上したのですが、それを利用して比較的射幸性の高い機種が発売されました。当社はそうした機種は中長期的にユーザーのパチンコ離れを引き起こすと考え、ほどほどの射幸性で遊べる「ミドルスペック」の機種を中心に販売してきました。しかし規則改正直後は射幸性の高い機種が売れ筋の中心であったため、「ミドルスペック」中心の当社の機種が売れにくい状態が続きました。

しかし、ユーザーは射幸性の高い機種から離れ、現在では「ミドルスペック」が売れ筋の中心となっており、短期的な売上減はありましたが、業界の長期的動向も考えた場合、当社の方向性は正しかったと考えています。

### 通期の業績予想

——通期の業績予想について教えてください。

通期の業績予想は売上高853億円、経常利益82億円と今年5月に発表した業績予想を下方修正する結果となり、株主の皆様にお詫びいたします。

業績予想を修正した理由は、上期のパチンコ機の販売が予想を下回ったこと、また許認可の今後の見通しやパチンコ機の内規が変更されたことなどを踏まえ、下期の販売計画を修正したためです。

——こういった情勢に対しどのような対応をしているのでしょうか？

私が一番重要視しているのが、開発体制の強化です。企画部門は従来より東京で仕事をしていましたが、今年5月には開発部門を、本社のある群馬県から東京の上野の一部異動させ、同じビルで仕事をする体制とし、企画・開発部門の連携を強化させました。(10ページ参照)

また、パチンコ機・パチスロ機のコンテンツのなかで映像表現力やサウンド技術の重要性が高まっており、それらの技術向上を果たしていきます。さらにターゲット層にあわせたキャラクターやストーリーといった企画力の強化も課題の1つと考えています。

### パチスロ機の自社開発・生産体制について

——今までもパチスロ機は販売していましたよね？

はい、当社が以前販売していたパチスロ機は、当社が企画し、オリンピア社（持分法適用会社）が開発・生産していました。今回、自社で「企画・開発・生産・販売」を一貫して行う体制をオリンピア社の協力の下で構築し、今年度より自社パチスロ機の販売を開始しました。(10ページ参照)

——オリンピア社との関係は今後どうなるのでしょうか？

当社が企画しオリンピア社が開発したパチスロ機の評価は市場から非常に高い評価をいただいております。当社がパチスロ機市場において10%のシェアを獲得する原動力となってきました。今後もこの体制は維持し、自社パチスロ機と、当社が企画しオリンピア社が開発・生産したパチスロ機の双方を販売していくことにより、市場シェアを確保しつつ、以前より利益率を上げていく方針です。

### 最後に

株主の皆様のご期待には、必ずしもお応えできなかった中間期の業績となりましたが、11月に発売したパチンコ機「ルパン三世」シリーズが10万台のヒットとなるなど、明るい兆しも見えています。当社の抱える課題を着実に克服し、株主の皆様のご負託にお応えしていく所存です。今後も引き続き変わらぬご支援を宜しくお願いいたします。

# 03 | セグメント別の概況と通期の見通し

## ▶ パチンコ機事業

### ■ 概況

2004年のパチンコ・パチスロ業界の業界規模をしめす貸玉料は29兆4,800億円、遊技人口は1,790万人であり、ファン構造がヘビーユーザー中心であることが推察されます。パチンコ・パチスロ業界の長期的な繁栄のためには新たなユーザーの獲得による市場の活性化が業界全体の課題になっています。

パチンコ機市場は、昨年11月からの新規則機の投入による入替需要の拡大の影響もあり、昨年度の販売台数は過去最高の401万台となりました。2005年度上期に関しては、引き続き新規則の影響による入替需要もあり、パチンコホールのパチンコ機に対する需要は昨年と比較し増加傾向にあります。

そうした状況の中で当社は、「ドロンジョにおまかせ」(4月発売)、新規則を利用し遊びやすいスペックを取り入れた「サバンナキング」(5月発売)、知名度の高いキャラクターを使いながら新しい世界観を生み出した「月光仮面」(7月発売)、「およげ!たいやきくん」(9月発売)の計4シ

リーズを発売し、営業努力を重ねてまいりました。

しかし遺憾ながら、上期における販売台数は85,522台となり、販売台数が予算台数を下回る結果となりました。これは、発売機種投入時期が競合他社の有力機種と重なったことなどの影響によるものです。

### ■ 通期の見通し

当社が11月に発売した「ルパン三世」が約10万台のヒットを記録するなど、パチンコ機の需要は年度後半も堅調に推移していくものと考えています。

こうした状況の中、当社グループでは上期における販売台数や許認可の状況、またパチンコ機規則(日工組内規)の一部変更等をふまえ、パチンコ機の投入時期などの販売計画を一部見直しました。通期では8シリーズを発売し、販売台数265,000台、売上高548億円を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期(中間)	第37期
売上高	17,839	26,925
営業利益	3,355	5,925

## ▶ パチスロ機事業

### ■ 概況

2004年度のパチスロ機市場は、ここ数年のパチスロ人気を反映し、設置台数が過去最高の188万台を記録した一方、新規則に基づくパチスロ機の許可取得が困難であったこともあり、販売台数は167万台(前期比9%減)となりました。

2005年度上期は、新規則機の許可の見通しが不透明で、各メーカーとも持ち駒の旧規則機を主に販売しました。その結果、販売台数は昨年と比較し減少したものと思われれます。

そうした状況の中、当社は自社開発・生産の旧規則機である「雷蔵伝」(4月発売)、「麻雀物語」(8月発売)の2機種を発売しました。

その結果、中間期における販売台数は19,577台となりました。自社開発・生産の2機種の発売により、販売台数は昨年より減少しているものの、利益率は大きく改善されました。

### ■ 通期の見通し

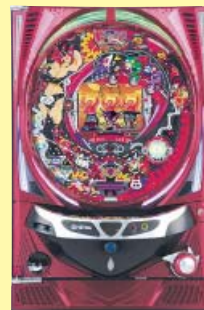
年度後半においては、新規則機の許可取得に明るい情勢は見られるものの、新規則機に対する市場の評価を判断するには難しい状態にあります。

こうした状況の中、当社グループでは新規則に基づくパチスロ機の許認可の状況や市場の動向をふまえ、パチスロ機の投入時期などの販売計画を一部見直しました。通期では3機種を発売し、販売台数40,000台、売上高132億円を予定しています。

(百万円未満切捨表示)

	第38期(中間)	第37期
売上高	6,686	10,908
営業利益	2,738	1,650

## パチンコ機 新機種紹介



### ドロンジョにおまかせ

(2005年4月発売)

パチスロでも好評だった「ドロンジョにおまかせ」がパチンコにも登場。ドロンジョが負ければ大当たり確定!

©タツノコプロ  
©BANPRESTO



### およげ!たいやきくん

(2005年9月発売)

だれもが知っているあの懐かしい名曲をモチーフに、女性スタッフの手により企画・開発されたパチンコ機。「遊べる」スペックも魅力の一つです。

©高田ひろお

## パチスロ機 新機種紹介



### 雷蔵伝

(2005年4月発売)

当社初の自社開発・生産パチスロ機「HEIWA LEGEND Series」第1弾です。リールを拡大するなど操作性の向上も図りました。



### 麻雀物語

(2005年8月発売)

初のカラー液晶搭載機として、パチンコ界に革命を起こした「麻雀物語」。あれから14年、伝説の名機がパチスロとして蘇りました。

# 03 | セグメント別の概況と通期の見通し

## ▶ 補給機器事業

当事業ではパチンコ機・パチスロ機を設置する島やホールに必要なホールコンピュータ、パチンコ玉・メダルの補給機器などを取り扱っています。

中間期の売上高は19億円、営業損失は5,700万円となりました。通期では46億円の売上高を見込んでいます。

(百万円未満切捨表示)

	第38期(中間)	第37期
売上高	1,988	692
営業利益	▲ 57	▲ 84

## ▶ その他

再保険、投資事業、情報提供サービス等、主にグループ会社によるものです。

(百万円未満切捨表示)

	第38期(中間)	第37期
売上高	158	455
営業利益	94	157

## ▶ 遊技場事業

当事業は、子会社の(株)新効がパチンコ機・パチスロ機のアンテナショップとしてパチンコホールを3店舗経営しています。

中間期の売上高は64億円、営業利益は5,700万円となりました。通期では124億円の売上高を見込んでいます。

(百万円未満切捨表示)

	第38期(中間)	第37期
売上高	6,467	3,569
営業利益	57	57

## ■ 通期(2006年3月期)の見通し(連結)

(百万円未満切捨表示)

	2005年4月~2006年3月(予想)	2005年1~3月(実績)
売上高	85,300	42,551
パチンコ機	54,800	26,925
パチスロ機	13,200	10,908
補給機器	4,600	692
遊技場事業	12,400	3,569
その他	300	455
営業利益	8,000	6,342
経常利益	8,200	3,981
当期純利益	5,400	1,787
1株当たり当期純利益	47.18 円	14.97 円

# 04 | HEIWAトピックス

## ▶ 平和第二ビル完成

当社では、かねてより、パチンコ機・パチスロ機の開発体制の強化を重要課題と考え、継続的に取り組んでいます。その一環で、業界の情報発信基地となっている東京の上野に、2000年から企画・開発部門の一部を異動させてきました。

そして本年5月、「平和第二ビル」として上野に完成したビルで、企画・開発部門が共に仕事をする環境を整えました。

今後は、時々刻々と変化する市場ニーズを的確に反映していくため、各部門間の連携をよりスムーズに行い、機種開発に取り組んでまいります。



平和第二ビル



## ▶ パチスロ工場完成

これまで当社はパチスロ機の企画・販売を行ってまいりましたが、開発・生産はオリンピア社(持分法適用会社)に委託してきました。この協力体制で「HEIWA」ブランドのパチスロ機は市場で高い評価を得てきましたが、当社としては、パチスロ機の自社開発・生産体制の構築が課題でした。

そのため、パチスロ機開発部門の創設、許認可の取得など、自社での開発・生産に向け、準備を進めてまいりました。そして、今年1月、群馬県伊勢崎市に当社のパチスロ工場を新設し、自社開発・生産体制を構築しました。

今年度は、この自社工場で2機種を自社開発・生産しました。これによりパチスロ機事業における利益率の改善が見込まれます。

今後もオリンピア社との協力体制は継続し、オリンピア社に開発・生産を委託するパチスロ機と並行して自社開発・生産パチスロ機を市場に投入することにより、パチスロ機事業における利益率の改善を図ってまいります。



▶ 連結財務諸表

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 (2005年9月30日現在)	第37期 (2005年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		97,331	122,024
固定資産		119,810	117,478
有形固定資産		25,003	24,719
無形固定資産		2,204	2,291
投資その他の資産		92,603	90,468
資産合計		217,142	239,503
(負債の部)			
流動負債		14,181	37,508
固定負債		1,185	1,264
負債合計		15,367	38,773
(少数株主持分)			
少数株主持分		—	542
(資本の部)			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		171,416	170,424
その他有価証券評価差額金		△ 419	△ 917
為替換算調整勘定		△ 442	△ 538
自己株式		△ 2,210	△ 2,210
資本合計		201,775	200,188
負債、少数株主持分及び資本合計		217,142	239,503

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
売上高		33,139	42,551
売上総利益		12,640	11,934
営業利益		3,738	6,342
経常利益		5,158	3,981
税金等調整前中間(当期)純利益		5,385	3,819
中間(当期)純利益		3,223	1,787

■ 中間連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高		16,675	16,675
資本剰余金中間期末(期末)残高		16,675	16,675
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高		170,424	167,157
利益剰余金増加高		3,223	4,850
利益剰余金減少高		2,230	1,583
利益剰余金中間期末(期末)残高		171,416	170,424

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		647	7,881
投資活動によるキャッシュ・フロー		6,417	1,040
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 716	△ 1,433
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 228	41
現金及び現金同等物の増減額		6,119	7,530
現金及び現金同等物の期首残高		57,335	49,805
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		△ 693	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		62,762	57,335

▶ 単独財務諸表

■ 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 (2005年9月30日現在)	第37期 (2005年3月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		82,476	104,429
現金及び預金		23,932	34,761
受取手形		5,240	20,579
売掛金		4,341	1,727
有価証券		35,030	27,489
棚卸資産		6,038	10,176
繰延税金資産		2,662	3,423
その他の		5,296	6,431
貸倒引当金		△ 65	△ 159
固定資産		119,713	117,453
有形固定資産		21,775	21,389
無形固定資産		42	52
投資その他の資産		97,894	96,012
資産合計		202,189	221,883
(負債の部)			
流動負債		11,878	32,946
支払手形		754	7,570
買掛金		5,971	19,437
未払法人税等		1,597	1,628
賞与引当金		461	455
その他の		3,094	3,855
固定負債		939	964
負債合計		12,818	33,910
(資本の部)			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		158,536	157,621
その他有価証券評価差額金		△ 449	△ 934
自己株式		△ 2,145	△ 2,145
資本合計		189,371	187,972
負債資本合計		202,189	221,883

■ 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第38期中間 2005年4月1日から 2005年9月30日まで	第37期 2005年1月1日から 2005年3月31日まで
売上高		24,707	37,877
売上原価		13,371	27,174
売上総利益		11,335	10,703
販売費及び一般管理費		7,964	4,868
営業利益		3,370	5,834
営業外収益		2,582	744
営業外費用		984	2,359
経常利益		4,969	4,220
特別利益		564	6
特別損失		358	148
税引前中間(当期)純利益		5,175	4,078
法人税、住民税及び事業税		1,546	1,434
法人税等調整額		518	111
中間(当期)純利益		3,111	2,532
前期繰越利益		145,875	144,109
中間配当額		1,431	—
中間(当期)未処分利益		147,555	146,641

# 06 | 会社概要・関連会社のご紹介

## ▶ 会社概要

平成17年9月30日現在

**商号** 株式会社 平和  
(英訳名: Heiwa Corporation)

**本社** 〒376-8588  
群馬県桐生市広沢町二丁目3014番地の8

**URL** <http://www.heiwanet.co.jp/>

**創業** 昭和24年

**設立** 昭和35年

**資本金** 167億5,500万円

**従業員数** 944名(連結)

**役員**

代表取締役社長	中島潤
代表取締役副社長	石橋保彦
専務取締役	堀江一義
常務取締役	町田徹
取締役	神山利夫
取締役	平野征宏
取締役	杉戸春雄
取締役	坂本雅夫
取締役	中村誠一
取締役	古川恵人
取締役	梅田正人
常勤監査役	井元敏勝
監査役	新井弘二
監査役	岸本政昭
監査役	頃安健司

**事業内容** パチンコ機の開発・製造・販売  
パチスロ機の開発・製造・販売

**事業所** 本社・工場(桐生・伊勢崎)、六本木オフィス、北海道、東北、北関東、東京、名古屋、大阪、広島、九州 他23営業所

**取引銀行** UFJ銀行、みずほ銀行、群馬銀行

## ▶ 関連会社のご紹介

- (株)オリンピア**  
所在地 / 〒110-0015 東京都台東区東上野2-11-7  
TEL / 03-3835-2181
- (株)アムテックス**  
所在地 / 〒379-2206 群馬県伊勢崎市香林町2-1818  
TEL / 0270-62-7731
- (株)新効**  
所在地 / 〒370-0073 群馬県高崎市緑町1-1-19  
TEL / 027-370-8880
- (株)平和サテライト**  
所在地 / 〒376-0002 群馬県桐生市境野町 7-86  
TEL / 0277-22-1155
- (株)平和サービス**  
所在地 / 〒376-0002 群馬県桐生市境野町7-86  
TEL / 0277-43-7501
- (株)平和アルファ**  
所在地 / 〒110-0015 東京都台東区東上野2-22-9  
TEL / 03-3839-0444
- Heiwa Insurance Inc.**  
所在地 / アメリカ ハワイ州ホノルル市
- Meteor LLC**  
所在地 / アメリカ ハワイ州ホノルル市
- Heiwa Investments AG**  
所在地 / スイス連邦 グランビュンデン州クール市

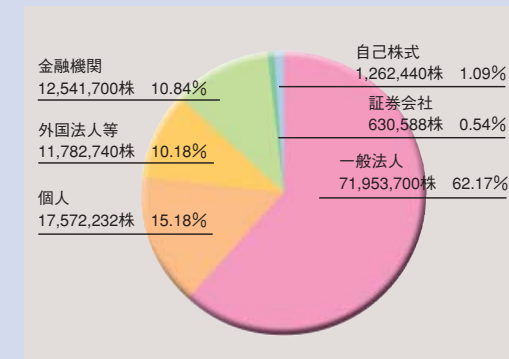
# 07 | 株式の状況・株主メモ

## ▶ 株式の状況

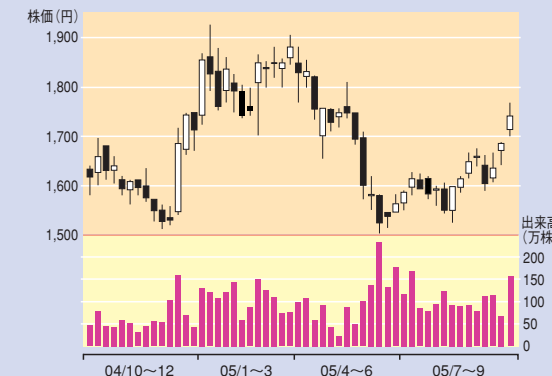
平成17年9月30日現在

会社が発行する株式の総数 228,903,400株  
発行済株式の総数 115,743,400株  
株主数 14,034名

## ▶ 株式の所有者別状況



## ▶ 株価チャート



## ▶ 株主メモ

**決算期** 3月31日

**利益配当金受領株主確定日** 3月31日

**中間配当金受領株主確定日** 9月30日

**定時株主総会** 毎年6月

**名義書換代理人** 三菱UFJ信託銀行株式会社

**同送付先・連絡先** 〒137-8081 東京都江東区東砂 7-10-11  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711

**同取次所** 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店  
野村證券株式会社 全国本支店

**上場証券取引所** 東京証券取引所第1部

## ■ 株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式関係のお手続き用紙のご請求は、三菱UFJ信託銀行にてお電話及びインターネットでも24時間受け付けしておりますのでご利用ください。

**電話** 0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)

**ウェブサイト** <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。

### 株式会社 平和

〒376-8588 群馬県桐生市広沢町2-3014-8  
本誌の内容に関することは総管理課 広報課にお問い合わせください。  
TEL 03-5770-8888 URL <http://www.heiwanet.co.jp/>